

小学校5年生 自然災害を防ぐ
第4時 ワークシート(B4サイズ)

どんな情報がある？

大雨や台風のときには、**気象警報**や**避難情報**などに注意し、安全に**避難**しましょう。

気象警報の種類

種類	大雨 (土砂災害・浸水害)	暴風	説明
特別警報 重大な災害の起こる恐れが著しく大きい	大雨特別警報 (土砂災害・浸水害)	暴風特別警報	ただちに命を守る行動をとる。 (避難所へ避難するか、外出が危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる)
警報 重大な災害の起こる恐れ	大雨警報 (土砂災害・浸水害)	暴風警報	・早めの自主避難、または市町村の かん告・指示による避難。 ・暴風警報については、安全な場所に退避。
注意報 災害の起こる恐れ	大雨注意報	暴風注意報	・非常持出品の点検。・避難場所の確認。 ・窓や雨戸などの家の外の点検 ・気象情報に気をつける。
その他の 情報	土砂災害警戒情報	-	大雨による危険度が高まったとき発表され、 市町村の避難かん告発令や住民の自主避難 の参考となる防災情報。
	記録的短時間 大雨情報	-	大雨警報が発表されている時に、数年に1回 程度発生する激しい短時間の大雨を観測、 または解析したことを発表する情報。

出典：気象庁

避難情報の種類

テレビで、「**はん濫注意情報**」
とは、避難の準備を始める合図です。

「はん濫注意情報」とは、避難の準備を始める合図です。お年寄りや小さな子供は、避難するのに時間がかかるので、「はん濫注意情報」を合図に避難を始めても良いでしょう。

テレビで、「**はん濫警戒情報**」
とは、避難を始める合図です。

住んでいる市・町・村から、避難についての情報が、広報車や無線、サイレンなどで伝えられます。避難勧告が出なくても、危険を感じたら自分からすすんで避難するようにしましょう。

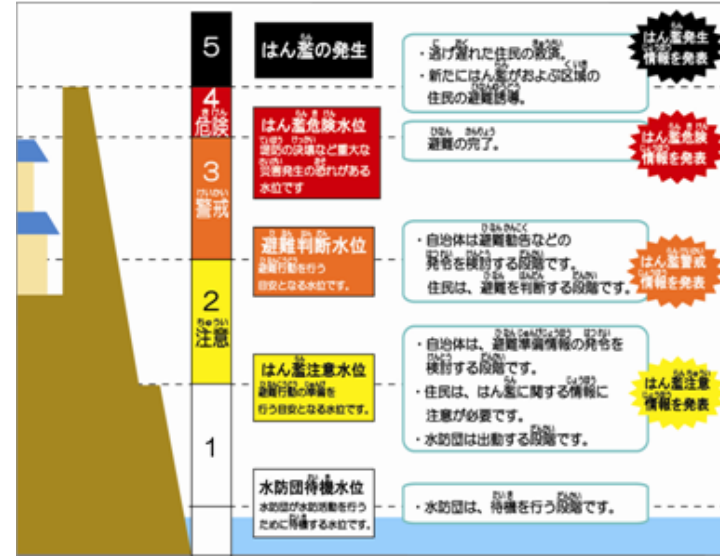


ぼうさいむせん
防災無線

テレビ・ラジオ・防災無線・インターネットなどから
情報を入手しましょう。

川の危険度レベルを知ろう

橋などには、水位の高さから洪水の**危険度**が判断できる表示があります。自ら**危険度**を判断できるようになりましょう。
また、川の水位は**避難勧告**等の発令の**基準**です。水位が上がってきたら、さつま町からの**避難情報**に注意しましょう。



川の危険度レベル表示



川の水位は、川内川河川事務所「早見やん川内川」(インターネット)でも見るることができます。

こう水が起こる雨量の目安を知ろう

テレビやラジオの天気予報では、雨の降る量(降水量)のことを、「mm(ミリ)」で表します(例「今日は、1時間に30mmの強い雨が降りました」)

1時間に10～20ミリの雨のとき、
天気予報では、「**やや強い雨**」と言います。
★このときのイメージは、ザーザーと降る感じですが、長時間降ったら注意が必要です。

1時間に30～50ミリの雨のとき、
天気予報では、「**激しい雨**」と言います。
★このときのイメージは、バケツをひっくり返したような感じですが、大きな災害の可能性があるため、危険箇所を避け、避難の準備！

1時間に50～80ミリの雨のとき、
天気予報では、「**非常に激しい雨**」と言います。
★このときのイメージは、ゴーゴーと降り続ける感じですが、大きな災害が起きる

1時間に80ミリ以上の雨のとき、
天気予報では、「**猛烈な雨**」と言います。
★このときのイメージは、滝のように雨が降る感じですが、大きな災害が起きる

土砂災害の前兆を知ろう

がけくずれ

1. けから小石がバラバラと落ちてる
2. がけから水がわき出している
3. がけにわれ目が見える

地すべり

1. きわ井戸の水がにごる
2. 地われができる
3. シャめんから水が湧き出す

土石流

1. 川の流れがこり、りゅうぼくがまきまきになる
2. 雨は降り続けているのに川の水位が下がる
3. 山なりがる

ハザードマップを確認しよう

自分の住んでいるまちのハザードマップで避難場所、避難ルートを確認しておきましょう。



こう水ハザードマップ(虎居・宮之城屋地)



ぼうさい
防災マップ(さつま町)

避難するときに持ち出すものを準備しよう

ひじょうもちだしぶくろ ＜非常持出袋の中身の例＞

災害が起こったら必要なものをすぐに持ち出せるように「非常持出袋」を準備しておこう。



●みず



●懐中電灯



●くすり



●ひも・ロープ



●ラジオ



●印章・通帳・財布



●食料・缶詰など



●衣類



●おむつ・生理用品

水害のときに、安全に避難する方法を知っておこう

深いところは歩かないようにしましょう。
歩ける深さは足のひざぐらいの深さです。
それより深いところは危険です。
ながれが速いところは、ひざより浅くても歩きにくくなり、とても危険です。
水の中を歩くときは、つえやぼうなどを持って歩きましょう。
水の中には何があるかわかりません。
つえなどで確認しながら歩いて行きましょう。



避難するときは運動靴で！

長くつは、深いところに行くと、中に水が入ってきて歩けなくなります。
にげるときは、運動靴でにげましょう。
裸足はあぶないのでやめましょう！



必ず2人以上で避難しましょう。

子供やお年寄り、大人と離れないようにロープなどで体をつないで避難しましょう。
近くに、お年寄りなどが住んでいる場合は、避難するときに声をかけてあげましょう。

避難について家族で話し合おう

いつも家族で避難について話し合っておくと、いざという時にスムーズに避難ができます。

- ・避難場所や家族が集まる場所を話し合おう。
- ・危ない場所や道を防災マップで確認しておこう。
- ・災害時に家族と連絡をとる方法を話し合おう。
- ・避難道具がどこにあるのか確認しておこう。
- ・避難道具の中身を話し合おう。

